

宮代町人口ビジョン（素案） 説明資料 2015.7

第2回宮代町総合計画審議会資料

1. 宮代町人口ビジョンの位置づけ、対象期間等

① 人口ビジョン策定の目的

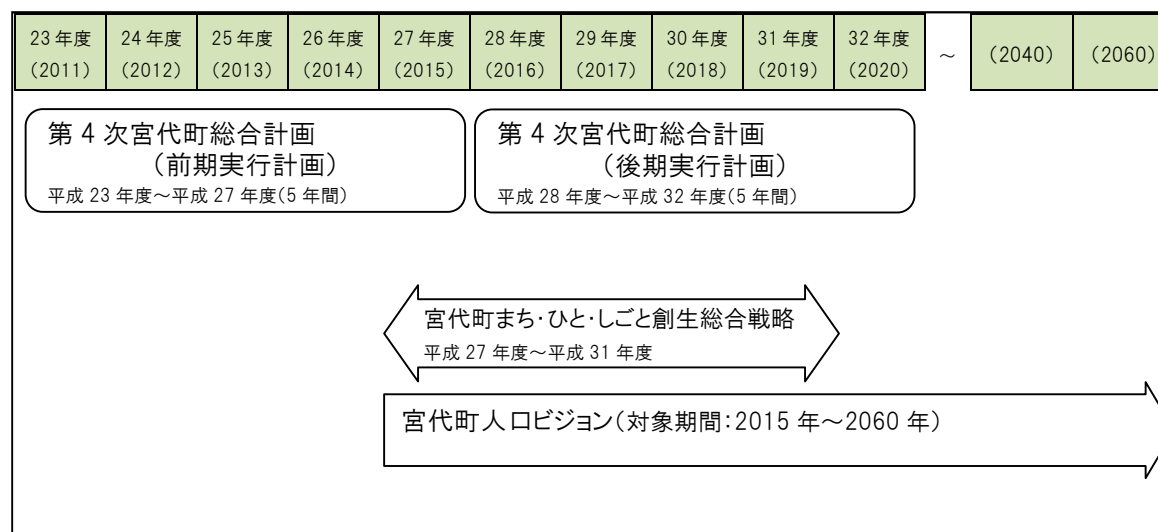
宮代町の人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

「宮代町まち・ひと・しごと創生戦略」の前提となるビジョンです。

② 対象期間と推計ベース

国勢調査による人口をベースとし、住民基本台帳による人口やその他資料を用いて分析、推計を行います。

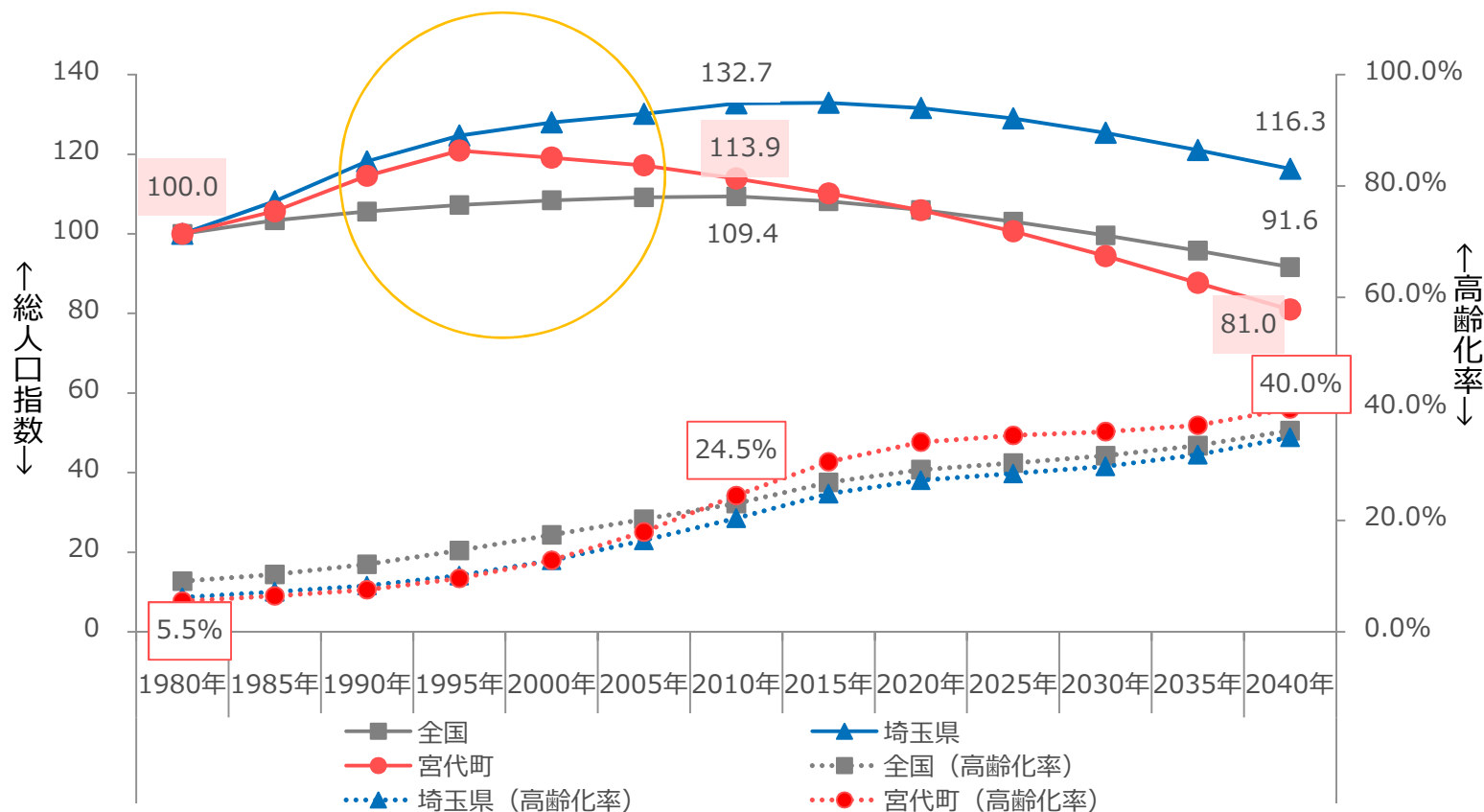
短期目標を2020年、中期目標を2040年、長期目標を2060年とします。



2. 国県の人口推移と今後の推計及びその解説

国県の人口推移と今後の推計

総人口実績と将来推計について1980年を100とした指数でみると、2010年の宮代町は113.9と、全国の109.4を4.5ポイント上回っていますが、県の132.7を18.8ポイント下回る水準となっています。



出典：国勢調査（平成22年以前）、国配布のワークシートより社人研ベース（平成27年以後）
 将来推計は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」による。

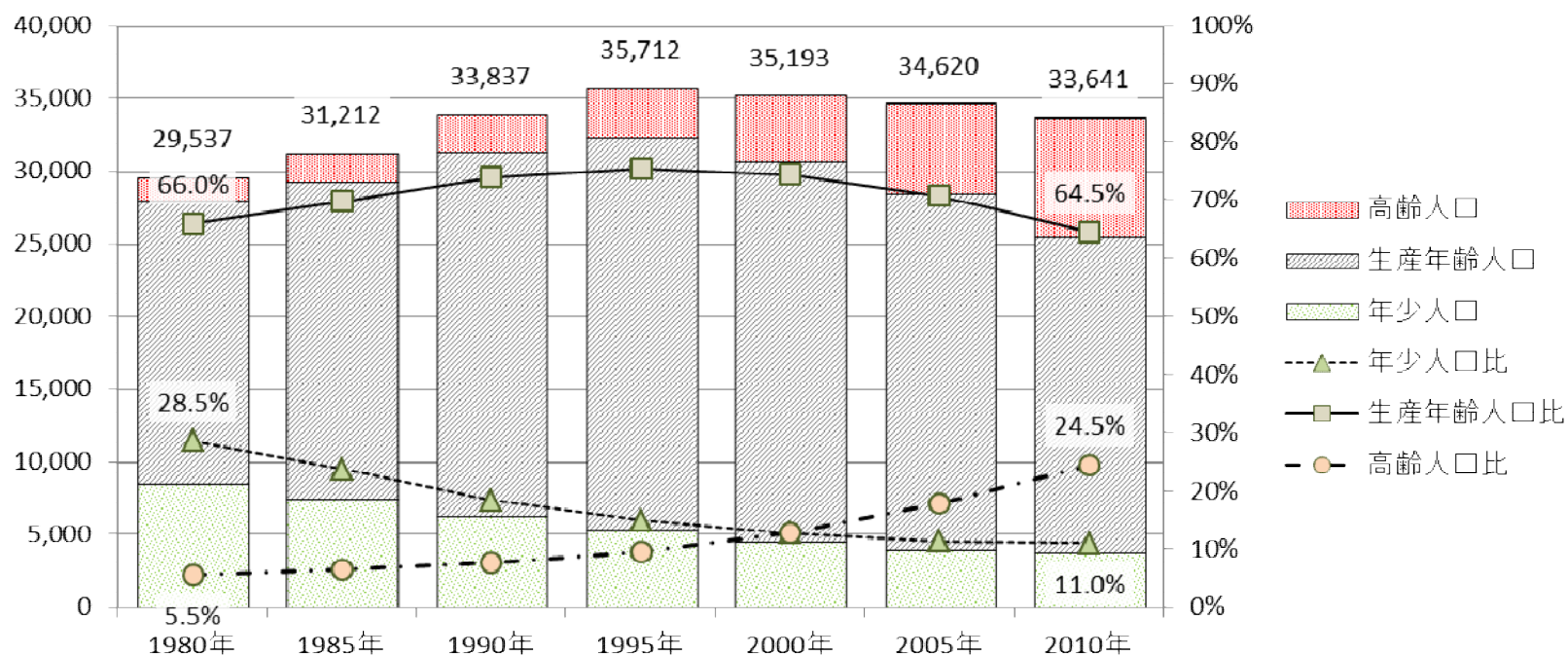
3-1. 町の人口推移と現状分析

国勢調査からみた、宮代町の総人口は1995年まで急速に増加しました。1980年から1995年まで15年間、5年ごとの増加率は平均6.5%、年率で1.27%でした。

その後は減少傾向に転じ、2010年まで5年ごとの減少率は平均▲2.0%、年率で▲0.40%でした。

この30年間で年齢層の構成比でみると、生産年齢人口（15～64歳）は1980年の66.0%から2010年は64.5%と1.5ポイント低下、年少人口（0～14歳）は1980年の28.5%から2010年は11.0%と17.5ポイント低下、高齢人口（65歳以上）は1980年の5.5%から2010年は24.5%と19.0ポイント上昇となっています。

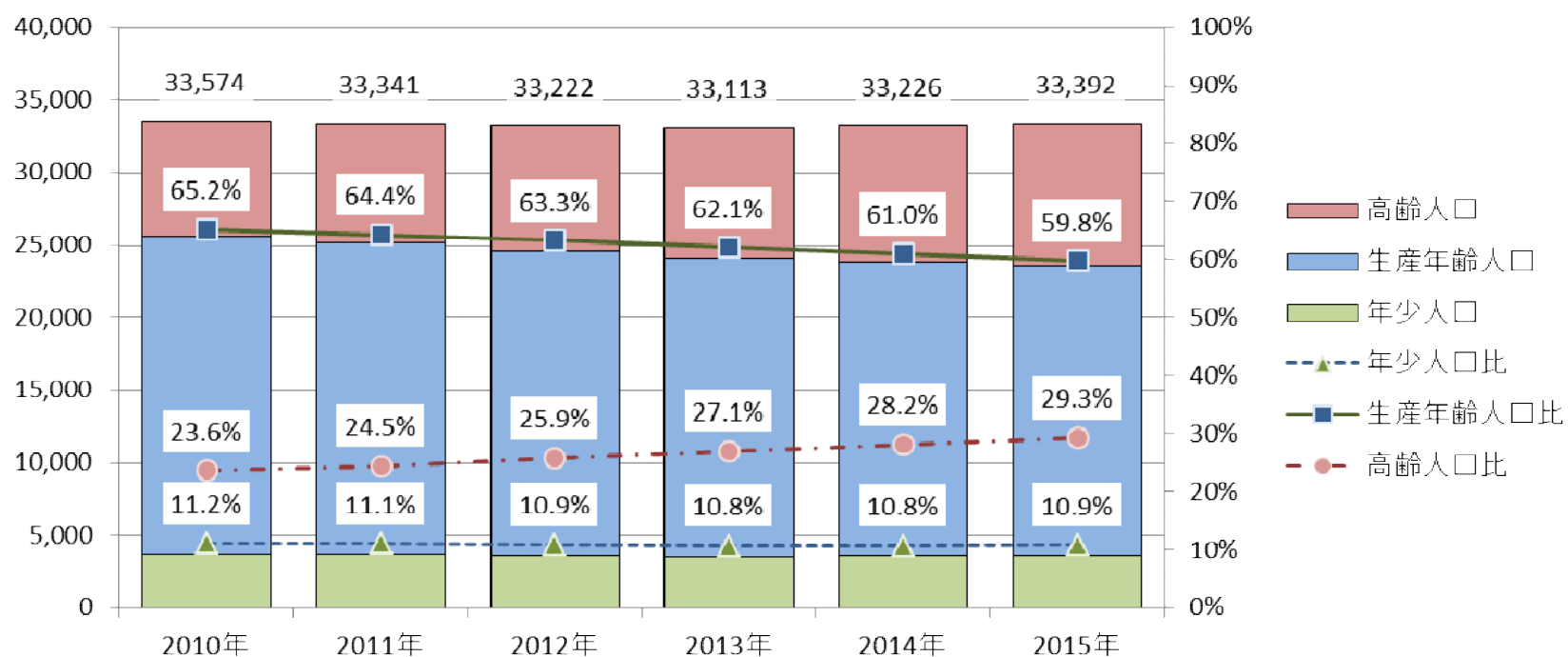
宮代町総人口と3階層別人口の推移（国勢調査）



3-2. 町の人口推移と現状分析

住民基本台帳からみた2010年以降の宮代町の総人口は、1995年以降緩やかな減少傾向にありましたが、道仏土地区画整理事業の完成、それに伴う町の定住促進策等の効果により2014年から上昇に転じています。生産年齢人口（15～64歳）は2010年から緩やかながら減少しています。年少人口（0～14歳）は、2010年からおおむね横ばいで推移、高齢人口（65歳以上）は2010年の23.6%から2015年の29.3%へ5.7ポイントの上昇となっています。

宮代町総人口と3階層別人口の推移（住民基本台帳）

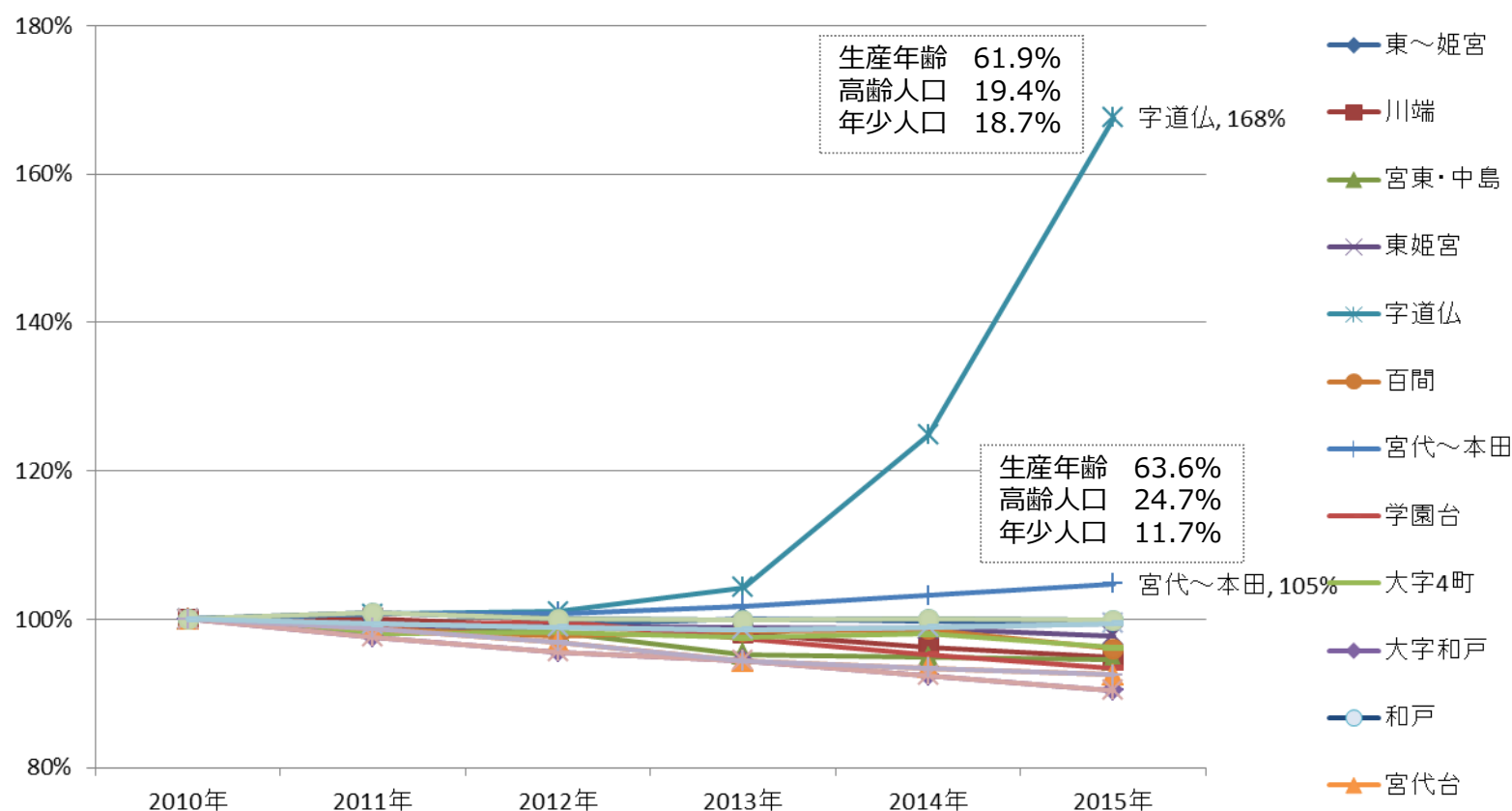


住民基本台帳 各年1月1日現在

3-3. 町の人口推移と現状分析

2010年以来の人口推移を地区別にみると、道仏地区の増加が突出して高く、168%となっており、実人数としても平成27年5月時点で793名306世帯の人口増となっています。町の中心部でやや増加にはあるものの、全体的に減少傾向の中で、道仏地区への人口流入が町の人口増に大きな効果となって表れていることは明確です。一方で人口減少地区の中では高齢化率が40%を超えている地区もあり、特に宮代台や学園台など過去に大規模宅地開発を行った地区においてその傾向が高くなっています。

過去5年間に於ける地区別の人口増減（2010年=100%とする指数）

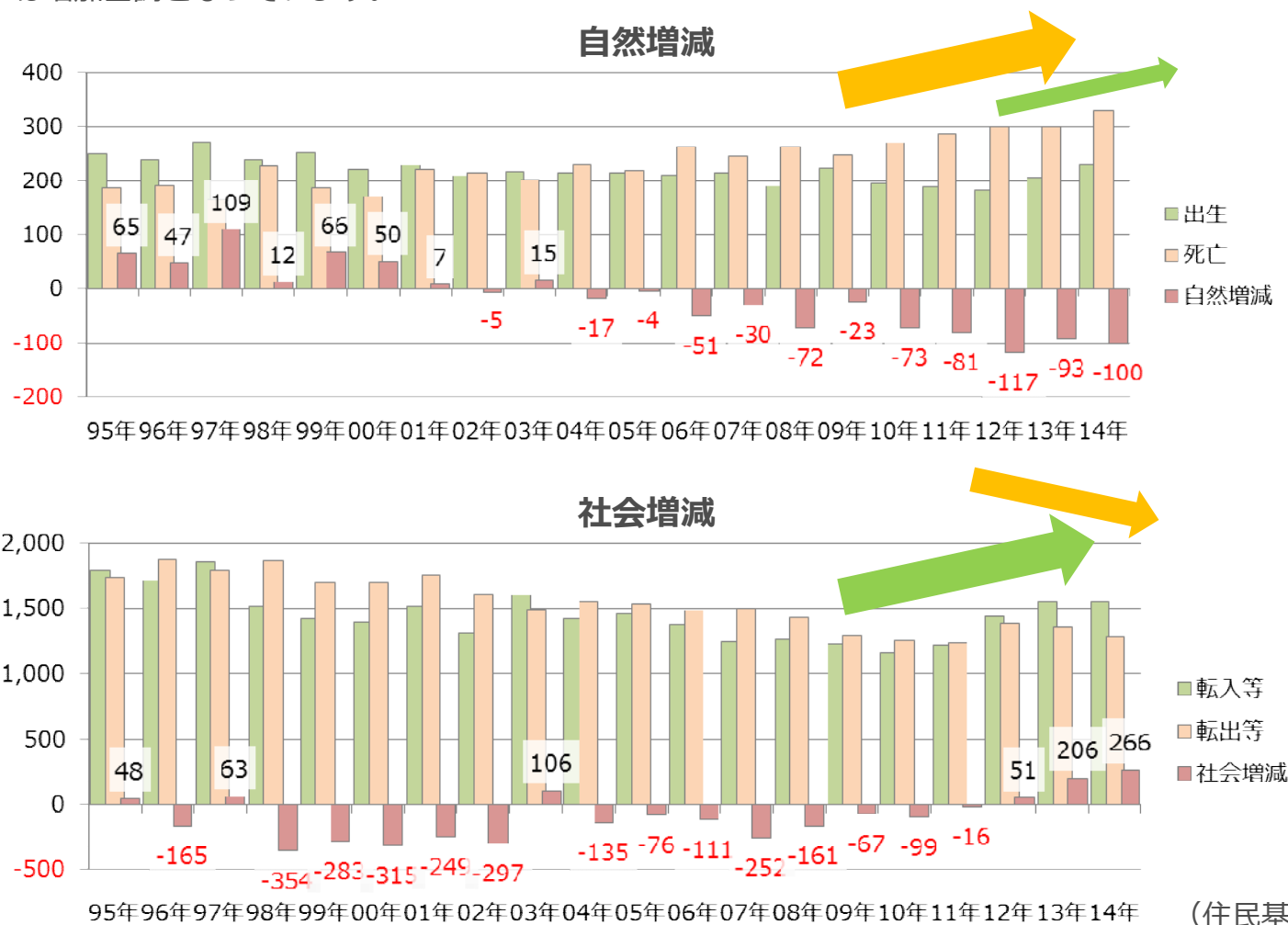


4. 町の人口動態（自然増減、社会増減）

住民基本台帳に基づく出生数は1995年以降、年間約200名程度で推移していますが、2012年度以降は増加の傾向もみられます。

一方、死亡数は1995年以降、年間約200名ほどから増加傾向となっており、2012年以降は300名超へ増加し、自然増減としては、2004年頃を境に増加から減少に転じました。

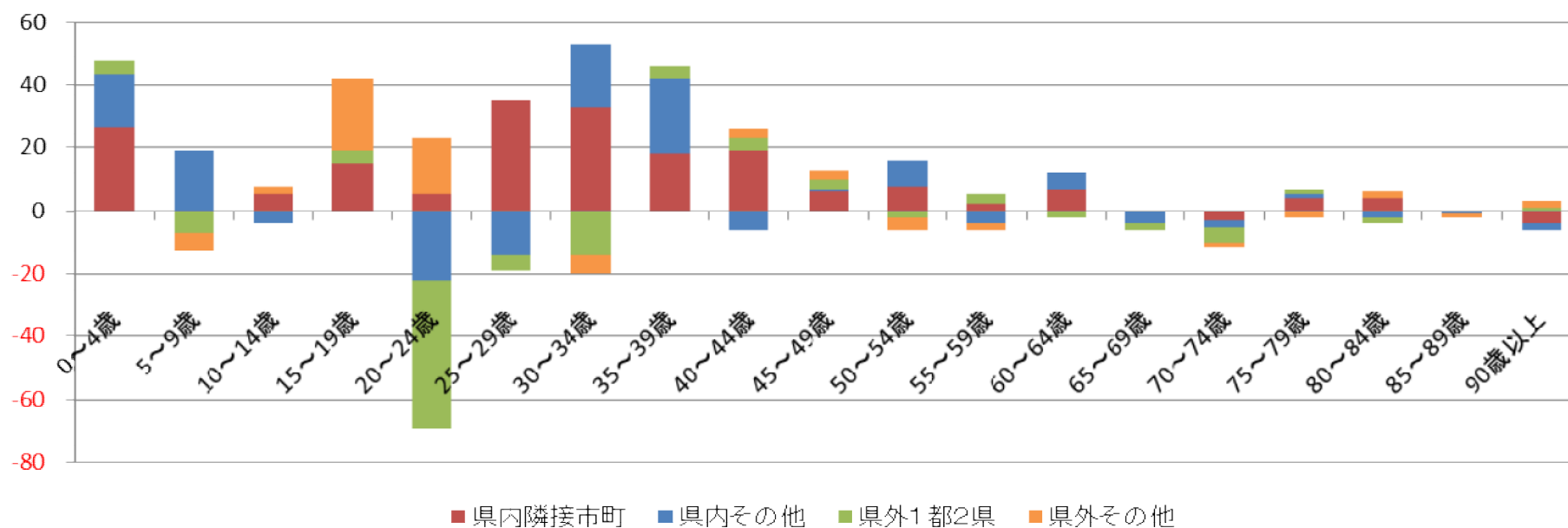
社会増減について、1995年以降、転入・転出とも減少傾向が続いてきましたが、1998～2002年を底に、社会増減の合計（転入－転出）は増加基調となっています。



5. 人口動態続き（近隣市町・県内・県外人口移動、年齢階級別純移動の状況）

年齢階級別の純移動（人数）の状況（平成25年）

平成25年の純移動数の状況は、20～24歳以外は、総じて転入超過傾向であり、特に20歳代後半から40代前半及び9歳以下の子どもが転入超過傾向であることから、区画整理事業の推進効果により、子育て世代が住居取得を伴って移住するケースや実家に近い地域に戻ってくるケースが想定されます。また20～24歳の大幅な減少は、日本工業大学の卒業生の影響が考えられ町の特徴の一つです。



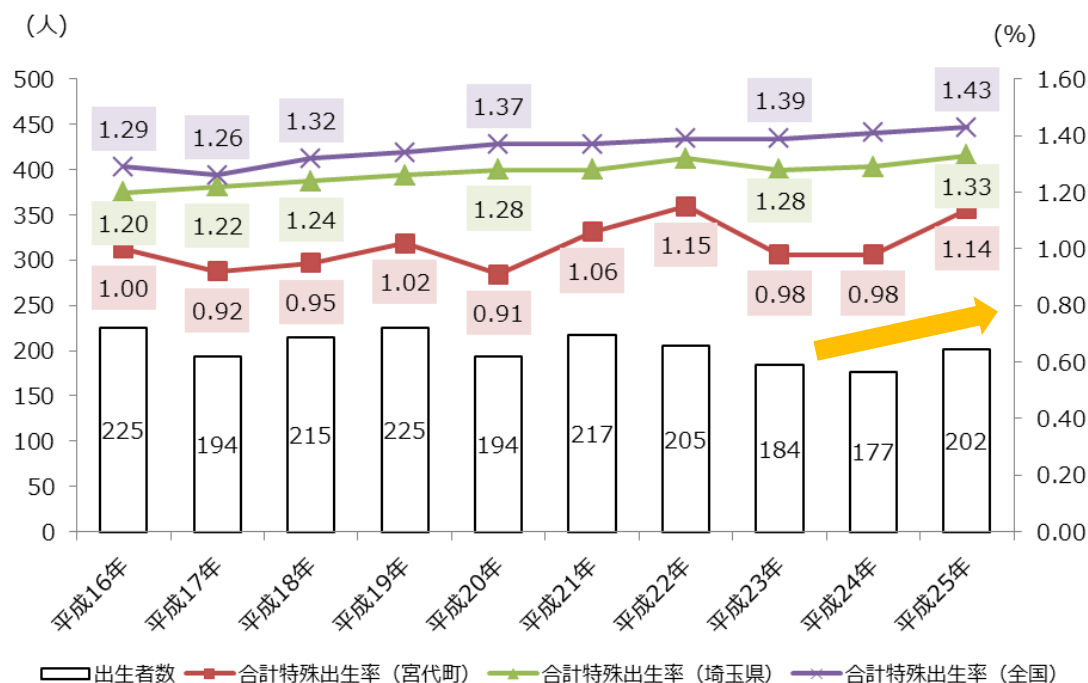
住民基本台帳

6-1. その他人口動態（合計特殊出生率推移、未婚率推移）

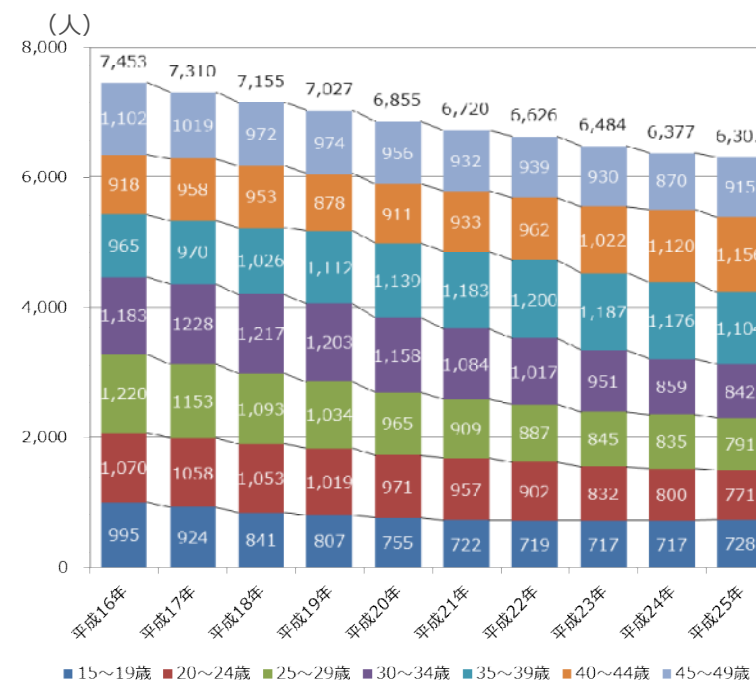
出生数・合計特殊出生率・未婚率の推移

下の折れ線グラフは、全国、埼玉県、宮代町の合計特殊出生率の動向を表したものです。宮代町の合計特殊出生率は埼玉県平均より低いものの、緩やかな上昇傾向にあります。また、女性の数が増加する中で出生数の実数が増えていること、ファミリー層の転入増が続いている状況もあり、定住促進施策の効果は、平成26年度以降の出生率に反映されてくると思われます。

出生数・合計特殊出生率



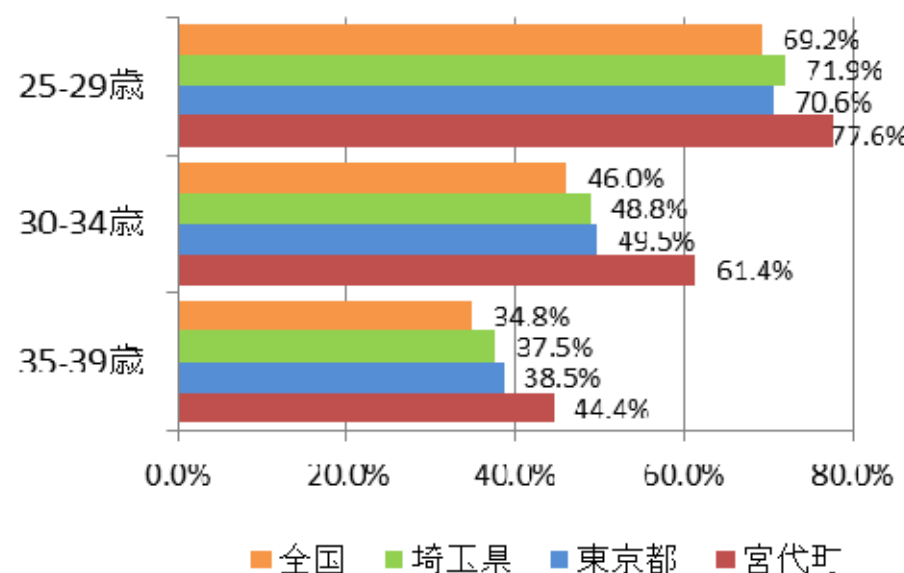
15～49歳の女性の人数



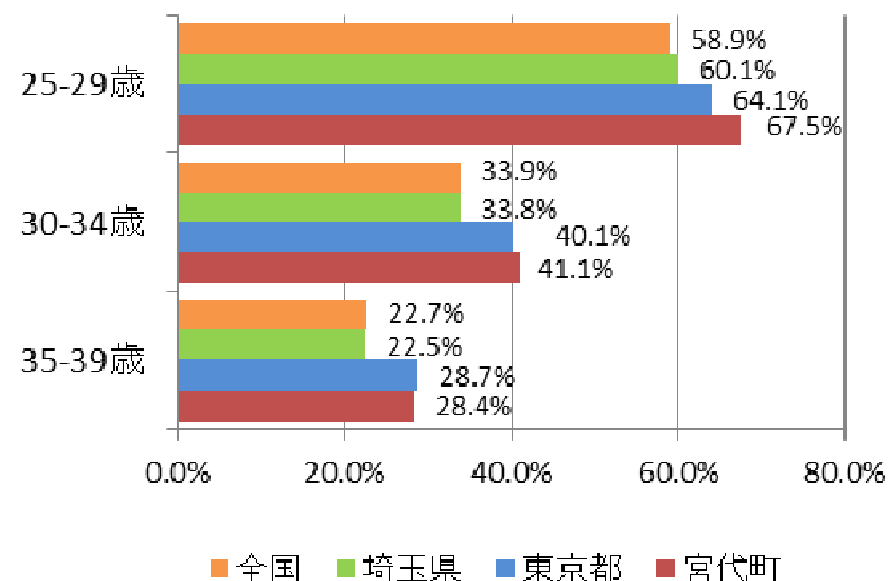
6-2. その他人口動態（合計特殊出生率推移、未婚率推移）

未婚率は男女ともすべての年代において、全国及び埼玉県 averages より高くなっています。1995年（国調）から人口減少が続く中で、ファミリー世代の人口流入が少なかったこと等が要因として推測されます。

男性の未婚率（平成22年）

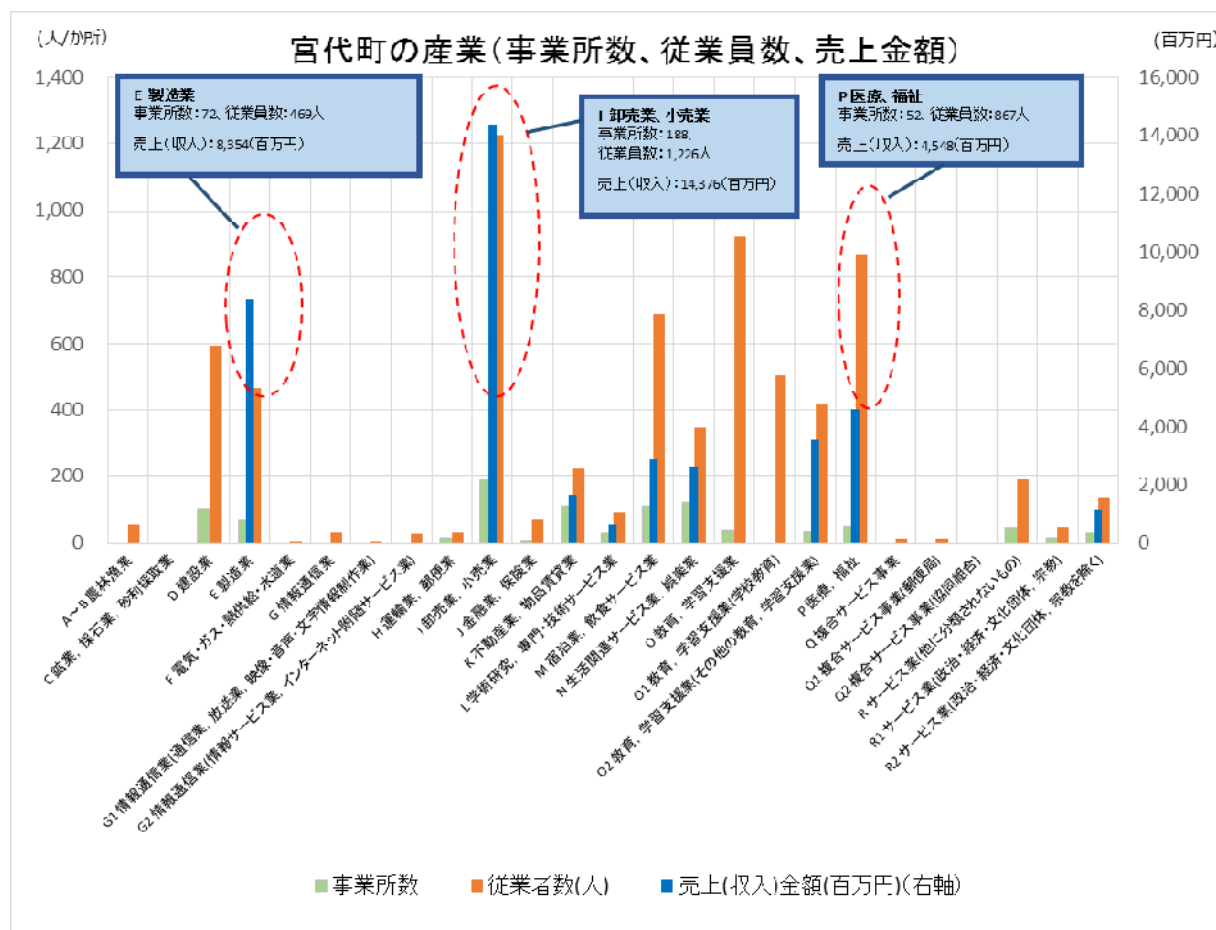


女性の未婚率（平成22年）



（国勢調査）

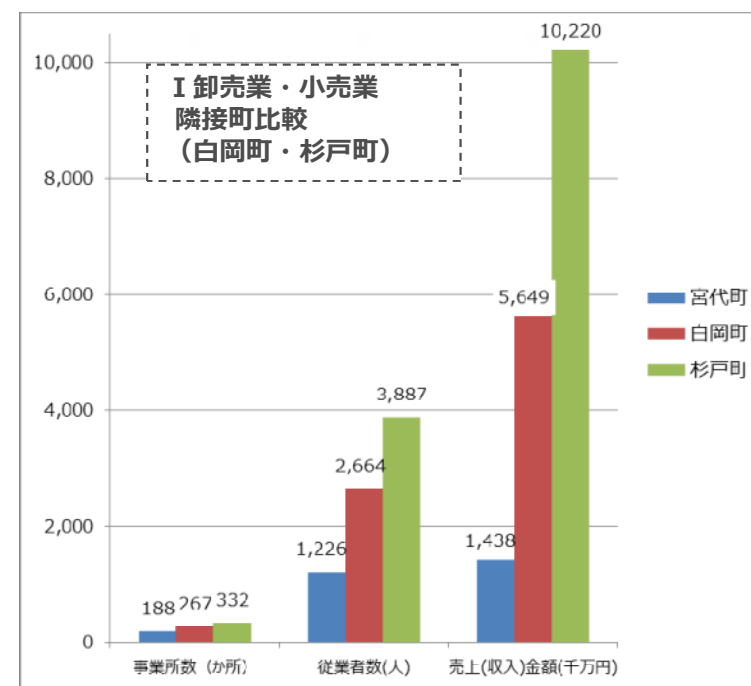
7. 産業別就業人口（町内、近隣）



平成24年経済センサス活動調査

宮代町の産業構造は、「I卸売業・小売業」が売上金額、従業者数ともに多く、続いて「E製造業」「P医療、福祉」が続く形になっています。従業員1人当たりの売上金額は、それぞれ「E製造業」18百万円、「I卸売業・小売業」12百万円、「P医療、福祉」5百万円です。

テーマパークが存在するところから、卸売・小売業の数や従業員数が多いことが類推されますが、隣接する杉戸町、白岡市と比較すると、従業員数は大きな差はないものの、従業者数は半分～3分の1、売上金額は3～7分の1となっており、雇用の場、産業の活性化という点で課題となっています。



8. 人口分析、産業分析から見る町の特徴、課題

■ 町の特徴

- ・ 日本工業大学があるため、常に一定規模の若者がいる学園都市的な人口構成
- ・ 地域最大の動物園が町内にあることで、昼間の人口が増える
- ・ 私鉄の始発駅という立地から、東京圏へのベッドタウンとして発展

■ 進む少子高齢化（本格的な人口減少期）

- ・ 町の総人口は、過去30年間、3万人から3万5千人で推移
- ・ 2015年の高齢人口比は29.3%と大きく高齢化。県平均と比較し5ポイント程度高い
- ・ 人口増時期に市街地整備、人口誘導を行わなかった影響が大きく、近隣市町に比べいち早く高齢化

■ 近年の純移動数は、総じて転入超過傾向

- ・ 道仏区画整理事業の推進効果により、2012年以降転入が転出を上回る傾向
- ・ 平成25年度の純移動状況では、特に20代後半から40代前半及び9歳以下の子どもが転入超過傾向
- ・ 区画整理事業の効果により、子育て世代が移住するケースや実家に近い地域に戻ってくるケースが想定

■ 既存住宅地との二極化が顕著

- ・ 宮代台、学園台、姫宮団地といった既存住宅地内では、高齢化率が30%～40%台まで上昇
- ・ 同時期での宅地分譲により、初期の購入世代が高齢化し、ファミリー世代の流入が進んでいない構図

8. 町の特徴、影響、課題、今後の可能性

■ 合計特殊出生率は中位で未婚率が高い

- ・ 町の2008年から2012年の期間における合計特殊出生率は1.13で、県内ほぼ中位で緩やかに上昇
- ・ 道仏区画整理の効果により、ファミリー層の転入が増加傾向のため、今後更なる上昇の可能性は高い
- ・ 出生数についても、ここ数年実数が増加傾向
- ・ 全国及び県内平均と比較し、男性女性とも未婚率が高い
- ・ 未婚率の高さは、ベッドタウンとしての立地的な理由とファミリー世代の誘導政策の遅れが要因と推測

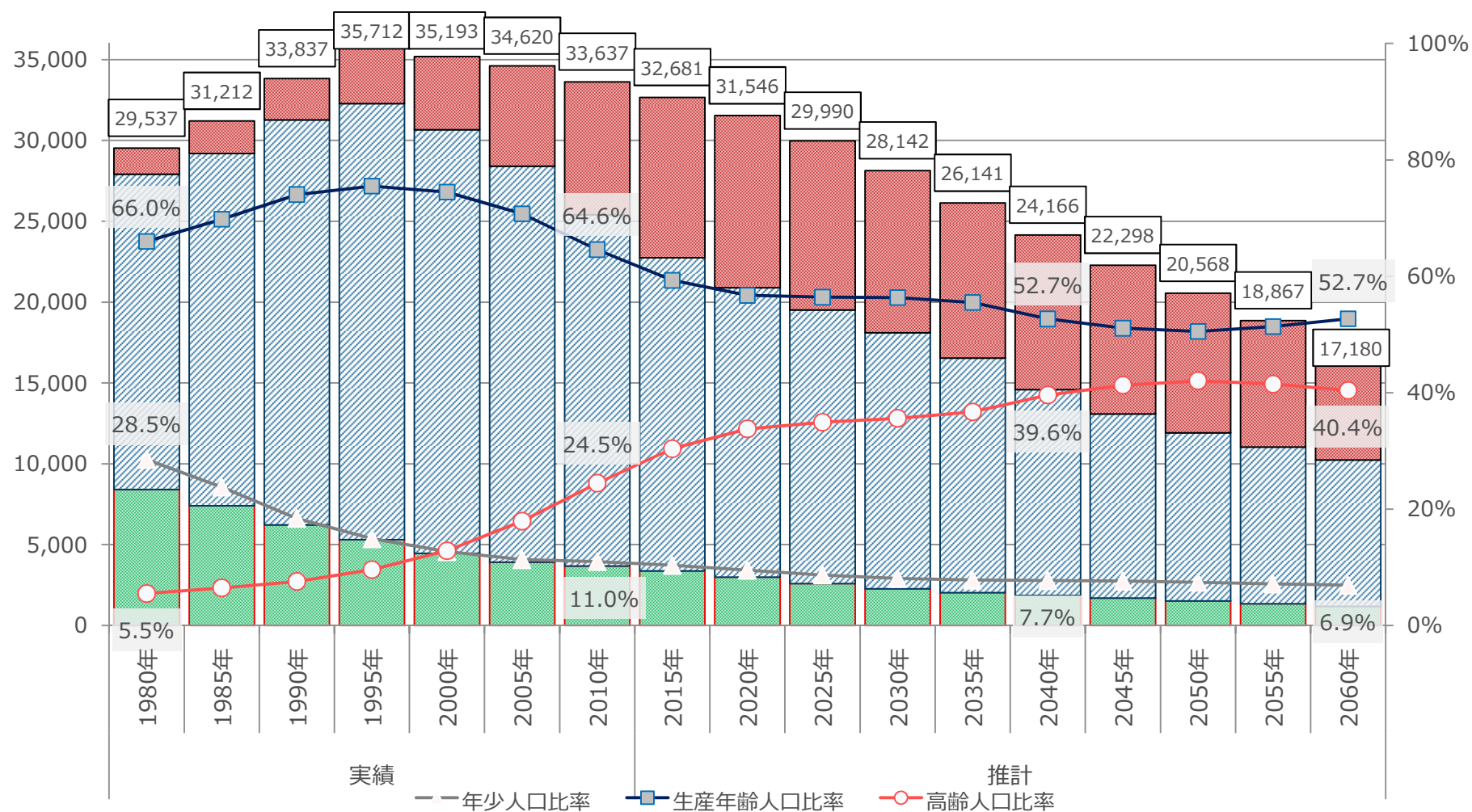
■ 町内における雇用力、収益力は弱い

- ・ 町内の就業人口は、卸売小売業、製造業が大きな割合を占める
- ・ 個人経営又は少人数の事業所割合が高く、町内での従業員数は白岡市の約半数、杉戸町の約3分の1
- ・ 売り上げ金額は、白岡市の約4分の1、杉戸町の約7分の1にとどまる
- ・ 勤務地別に見ると町外が7割以上。春日部市を始め近隣市町が多く、次いで東京23区

9-1. 将来展望人口と社人研、町独自推計人口

①社人研推計 (説明) 社人研モデル (日本工業大学生数考慮)

社人研推計モデルによる試算 (国基準モデルで、2010年を基準点とし、今後の人口異動が一定程度縮小する前提)
 ※推計の出発点となる2010年の人口から日本工業大学生数 (970名) を一度差し引いて将来推計を行い、2015年以降の推計結果に同じ数を上乗せするという処理を行っています。

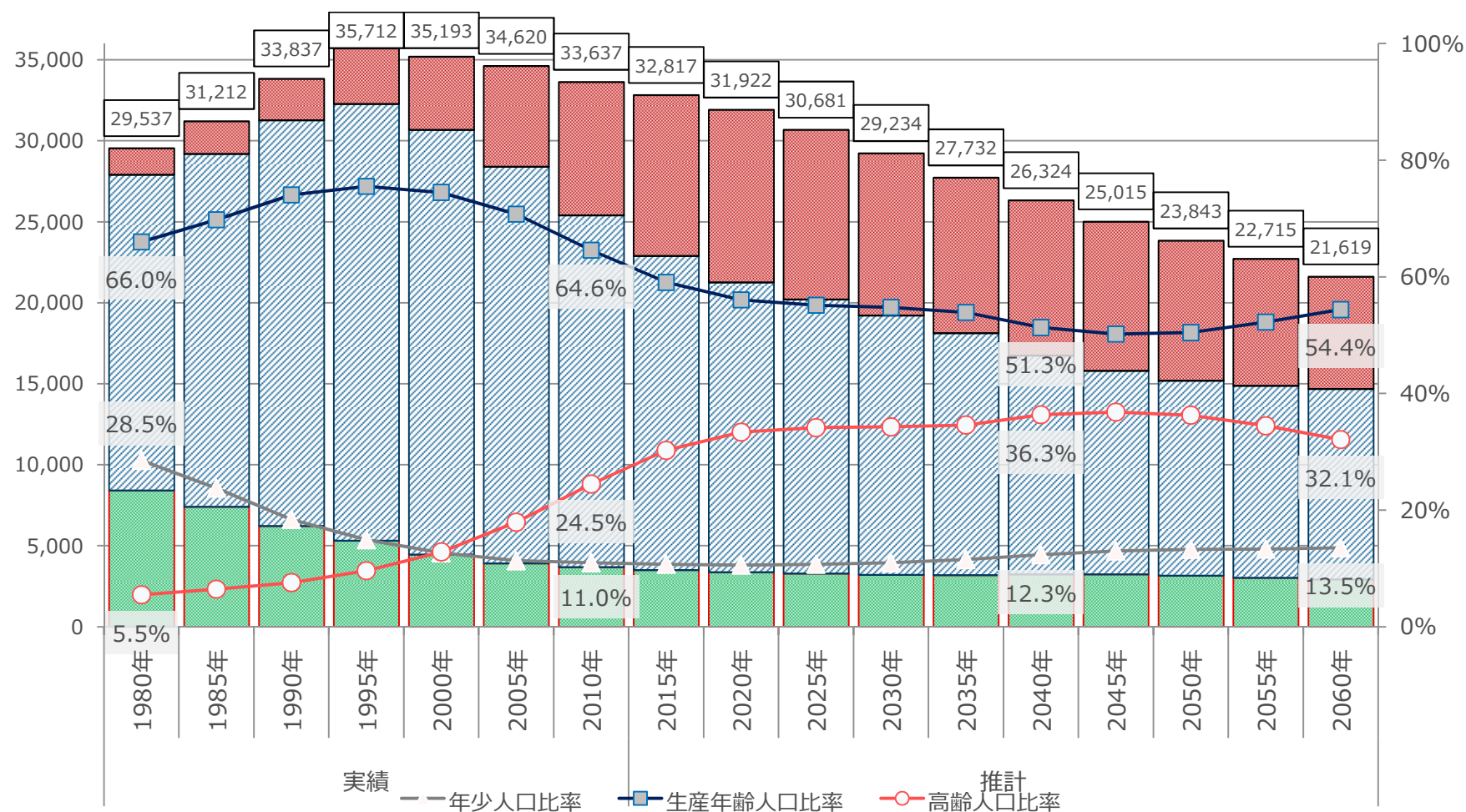


9-2. 将来展望人口と社人研、町独自推計人口

②社人研推計＋出生率アップ (説明) 社人研モデル(日本工業大学生数考慮)＋出生率2040年に2.07

①の社人研推計を基本として、出生率を2040年に2.07と設定しています。

※国が2060年に人口1億人を維持するために必要としている出生率を達成した場合の推計です。



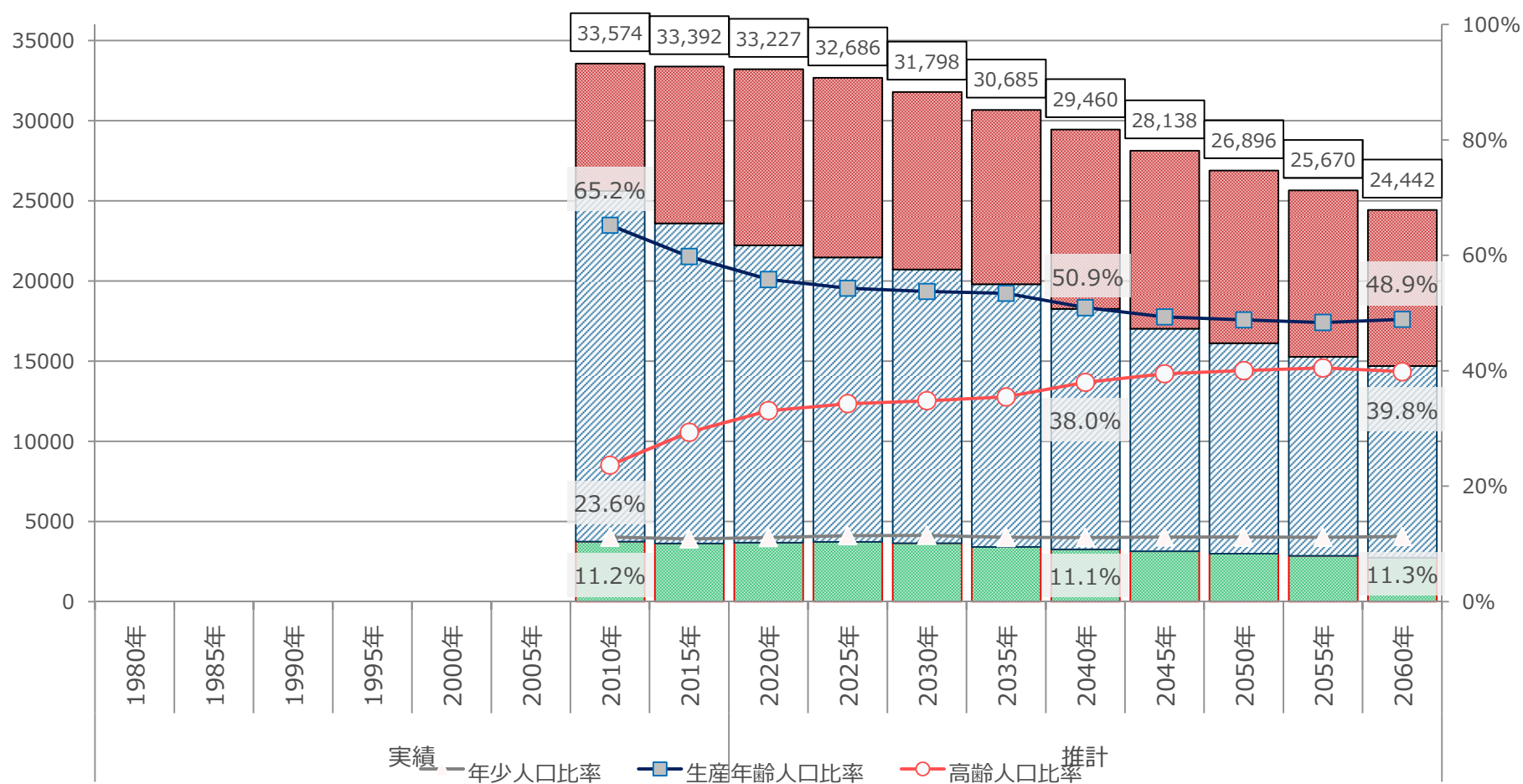
9-3. 将来展望人口と社人研、町独自推計人口

③町独自推計 (説明) 出生率2020年 = 1.60、住民基本台帳ベース独自推計

町では2010年から2015年にかけて道仏土地区画整理事業をはじめ定住促進策に取り組んできています。

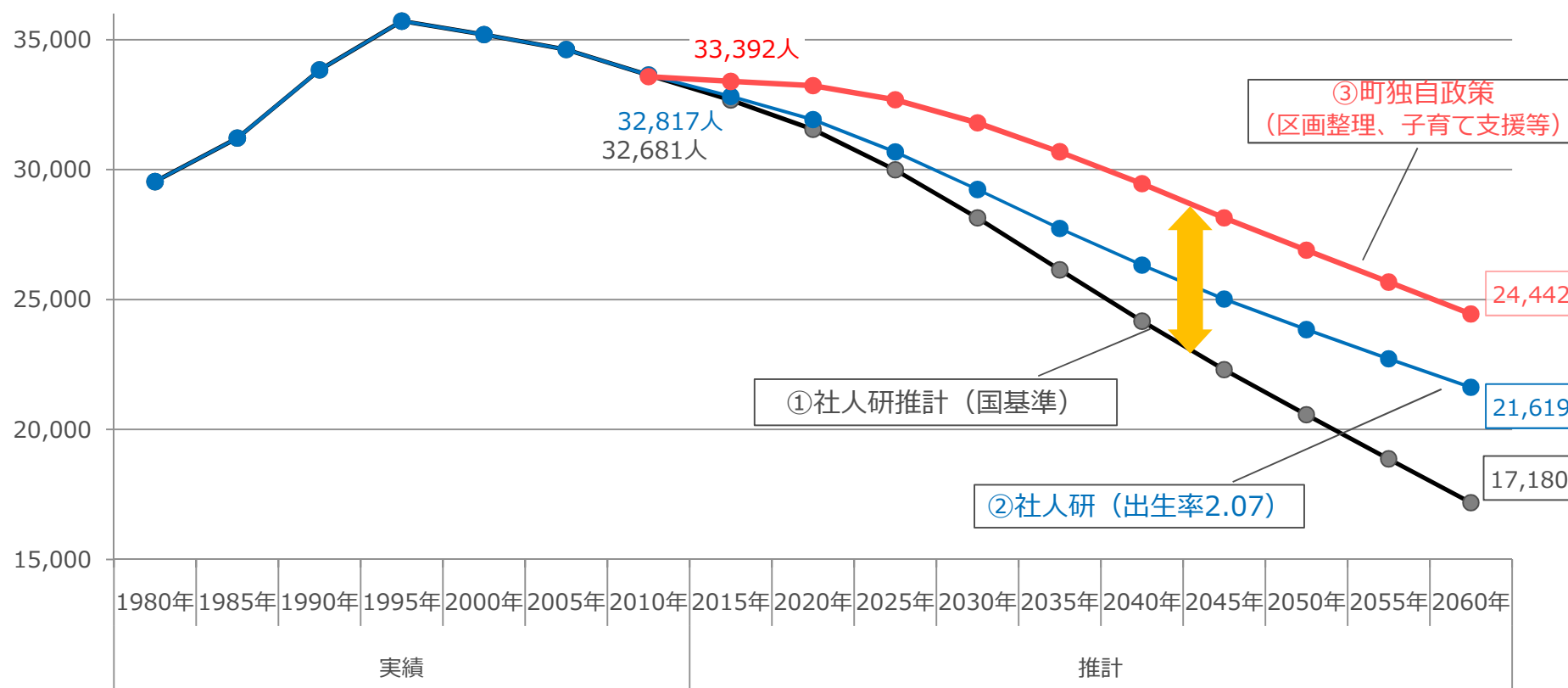
国基準は2010年ですが、2015年までの町の取組を反映した推計が必要と考え、住民基本台帳による2010年・2015年の人口を基準人口として推計を行いました。

※合計特殊出生率の仮定値は、道仏地区での出生数増加が見込まれることから、2020年に現状(1.14)と国目標値(2.07)の概ね中間にあたる1.6としています。



10. 試算結果の比較（将来展望人口と社人研、町独自推計人口の比較）

試算の結果は、下図に示すとおり、③の町独自推計がもっとも高くなり（2060年で24,442人）、②の出生率2.07パターンを上回っている。今後も課題を解決しつつ、道仏区画整理地内への人口流入を促す施策に積極的に取り組み、人口減少に歯止めをかける必要がある。



1 1- 1 . 総合戦略に向けての事業の方向性（分析結果、アンケート調査等より）

強みを生かす	・ 田園風景や緑豊かな環境 ・ ゆったりとしたまちの雰囲気 ・ 人と人のつながりが深い（地縁、志縁） ・ 進修館、笠原小学校といったユニークな建築物 ・ 駅が多く移動の利便性が高い ・ 道仏区画整理地への子育て世代の流入が着実に行われている ・ 通学通勤時間の許容範囲で、都内から県内各地まで可能なエリア ・ 日本工業大学がある ・ 東武動物公園の知名度が高い ・ 東武動物公園駅周辺整備が進行中
弱みを改善する	・ 未婚率が高い ・ 出生率が低い ・ 高齢化率が高い ・ 町のブランド力、知名度が低い ・ 商店や産業団地がなく、雇用の場が少ない ・ 買い物に不自由で賑わいが少ない ・ 幹線道路が少ない ・ 耕作放棄地など農業の担い手が不足 ・ 既存住宅地への人口流入が少ない ・ 医療施設や子育て施設が不足している

1 1-2. 総合戦略に向けての事業の方向性（分析結果、アンケート調査等より）

1.	地方における安定した雇用を創出	・若い世代の就業希望へ対応。 ・東武動物公園駅東西口周辺開発を中心とした雇用の場確保 ・農産物の加工品や新規就農等を中心に儲かる農業への転換、起業への支援 ・通勤時間の許容範囲は1時間前後。 近隣市町や都内への通勤に対しての優位性をPR
2.	地方への新しいひとの流れ	・道仏地区への人口流入の着実な進行（目標2,600人） ・既存住宅地での空家対策 ・利便性の高さと自然環境の豊かさの同居（住みやすさ）をPR ・90%以上の地名度、年間130万人が訪れる東武動物公園の町産業への活用（町へ立ち寄り＋リピート率アップ） ・新しい村の魅力を高め、ゆったりした町の特徴をPR ・宮代型観光の推進
3.	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	・2人以上の出産の希望をかなえるため20代からの婚活支援 ・結婚しても宮代に住み続けたいと思える事業、PR展開 ・結婚、出産、子育て情報をいち早く提供できるWeb等を使った仕組み ・出産後、子育て中も働きやすくなる支援 ・結婚、出産、子育ての楽しさを若い世代に伝える事業
4.	時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを	・高齢化に対応した地域防災力のアップ ・地域敬老会や介護予防、健康づくり活動を通じた地域力の底上げ ・日本工業大学生との地域での連携強化 ・公共施設の再編等を進め、人口減少と多様化するニーズへ対応 ・地域の活動等を他地域へ積極的に伝え広げる